

# N ewsletter

No. 12

Mar 23, 2026



## 海外活動報告

IUCNインターンシップ

UNESCO インターンシップ

IUCN-Jインターンシップ(国際会議参加)

## 国内活動報告

環境省インターンシップ

## 2025年度 授業・実習報告

Pick Up! 自然保護公開フィールド実習

Pick Up! 「履修生・修了生交流会」開催報告

Pick Up! 第2回つくば生き物多様性フェスタ



筑波大学

University of Tsukuba

# Table of contents

## 03 海外活動報告 インターンシップレポート

国際自然保護連合 (IUCN)	生命地球科学研究群	生物資源科学学位プログラム	M2	石原 里沙子
国連教育科学文化機関 (UNESCO)	人間総合科学研究群	世界遺産学学位プログラム	M2	Patricia Sun
04 国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)	生命地球科学研究群	地球科学学位プログラム	D1	VU THI HANG
国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)	生命地球科学研究群	生命農学学位プログラム	D2	翁 杰瑞翌
05 国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)	生命地球科学研究群	地球科学学位プログラム	M1	SIQINGTUYA
国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)	人間総合科学研究群	世界遺産学学位プログラム	M1	作森 元司郎
06 国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J)	生命地球科学研究群	生物学学位プログラム	M1	福井 涼士

## 06 国内活動報告 インターンシップレポート

環境省 (本省)	生命地球科学研究群	地球科学学位プログラム	M1	野本 実奈
----------	-----------	-------------	----	-------

## 07 2025 年度授業・実習報告

モンゴルの自然・文化・歴史から自然保護の重要性を発見する	自然保護特別実習 I	川田 清和
登山道整備を通して体感する保護地域管理の現場	保護地域管理実習	三ツ井 聡美
08 森・里・海が織りなす佐渡島の豊かな自然	野生生物管理実習	澤田 聖人
陸域フィールド実習 1 in ハケ岳	陸域フィールド実習 I	上條 隆志
09 白山奥山人から自然を生かした地域づくりを学ぶ	ユネスコ地域演習	飯田 義彦
野生生物管理の国際的視点と発信	Wildlife management	澤田 聖人
10 生態系の保全と復元を考える	生態系の保全と復元	飯島 大智
自然保護学の対話能力を通年で積み上げる	自然保護セミナー	飯田 義彦
11 世界と歩む自然に根ざした地域づくりを学ぶ	ユネスコエコパークとジオパーク	飯田 義彦
Pick Up! 人と自然の共存をめざす河川改修の現場	自然保護公開フィールド実習	
	人間総合科学研究群 世界遺産学学位プログラム	M2 向笠 陽介 (担当教員 飯田 義彦)
12 Pick Up! 自然保護寄附講座第 2 回同窓会企画「履修生・修了生交流会」開催報告		三ツ井 聡美
Pick Up! 第 2 回つくば生き物多様性フェスタへの参加レポート		三ツ井 聡美

筑波大学は、個人の篤志家からの寄附により、大学院生を対象とした寄附講座（サーティフィケートプログラム）を、2014 年度から開講しています。この寄附講座では、自然と文化にまたがる学際的な知識と、国際的な経験をもとに、自然保護に関する国際機関や国内機関、国際援助機関などで活躍する人材を育成することを目指しています。

モウコノウマは、一度絶滅してしまった野生馬です。ヨーロッパの動物園で飼育されていた個体がモンゴルのホスタイ国立公園に再導入され、徐々に個体数が増えつつあります。自然保護寄附講座は海外実習として 2024 年からホスタイ国立公園において自然保護の重要性を学修できる特色あるプログラムを立ち上げました。運が良ければ実習中に実際のモウコノウマを見ることができます。



文 川田 清和  
表紙写真 青木 智子 (地域と映像)  
モンゴルホスタイ国立公園内特別保護地域で撮影 2025/08/01

国際自然保護連合 (IUCN)  
International Union for Conservation  
of Nature (IUCN)

石原 里沙子  
Risako ISHIHARA

生命地球科学研究群 生物資源科学学位プログラム M2  
Master's Program in Agro-Bioresources Science and Technology, Degree Programs in Life  
and Earth Sciences M2

実施時期 ▶ 2025年3月17日～7月31日

## IUCN 世界遺産チームでのインターンシップで得た経験 Experience from internship with the IUCN World Heritage team

国際自然保護連合 (IUCN) で、2025年3月17日から7月31日にかけてインターンシップを行いました。IUCN 本部 (スイス・Gland) におけるインターンシップでは、多くのことを学ぶことができ、非常に貴重な経験となりました。業務では、Preliminary Assessment への参加や、第 47 回世界遺産委員会の準備・参加、2026 年度の世界遺産評価プロセスに携わりました。フランス・パリの UNESCO 本部で開催された第 47 回世界遺産委員会 (2025 年 7 月 16 日～26 日) では、IUCN 代表団のサポートを行いながら、締約国とのミーティング等にも参加しました。世界遺産委員会の開催前や会期中ともに、締約国とのミーティング等に参加し、締約国と IUCN が共になってその地域の自然と先住民の生活などを高めようとしているところを実際に見ることができ、とても貴重で良い経験となりました。

IUCN 本部でのインターンシップの仕事や、多くの素晴らしい方々との出会いを通して、

世界遺産や自然保護についてはもちろん、今後のキャリアに役立つことや仕事に必要なことも多く学ぶことができました。このよう

な貴重な機会に参加させていただき、ありがとうございます。



第 47 回世界遺産委員会 47th session of the World Heritage Committee

撮影 世界遺産委員会の参加者撮影 Photo taken by a participant at the World Heritage Committee.

国連教育科学文化機関 (UNESCO)  
東アフリカ地域事務所 文化局  
Culture Sector, UNESCO Regional Office for Eastern Africa

サン パトリシア  
Patricia Sun

人間総合科学研究群 世界遺産学学位プログラム M2  
Master's Program in Heritage Studies, Degree Program in Comprehensive Human Sciences M2

実施時期 ▶ 2025年3月～5月

## アフリカの文化遺産と向き合うナイロビでの学び Learning from African Cultural Heritage in Nairobi

2025年3月から5月までの3か月間、私は UNESCO ナイロビ事務所文化局でインターンしました。主な業務は、アフリカ地域における文化遺産保護のプロジェクト補助で、会議準備・運営、各国専門家との連絡調整など、多岐にわたりました。

特に印象深かったのは、2025年の「アフリカにおける遺産の真正性国際会議」に向けたナイロビ成果文書の整理に関わったことです。ドラフト会議に同席し、各国・各コミュニティが抱く「真正性」の価値観と向き合いながら文書に反映する作業は、文化遺産の多様性を理解する貴重な経験となりました。作業を進める中で実感したのは、遺産の価値は専門家だけでなく、その土地に暮らす人々の歴史・記憶・日常実践によって支えられており、真正性の判断にも彼らの語りや伝承が欠かせません。また、アフリカの多くの遺産では、文化と自然が分かちがたく結びついていることも強く感じました。森、聖地、景観など、自然環境そのものが無形

文化と連動しており、両者を不可分に捉える重要性を学びました。

ナイロビでの3か月は、遺産を「物」だけでなく「人々の営み」として理解する視点

を深める貴重な機会となりました。この経験は、今後文化遺産の保護に携わるうえで大きな基盤となると感じています。



国連ナイロビ事務所前

撮影 Angasa Joshua Nyabuto

実施時期 ▶ 2025年9月18日～10月24日

国際自然保護連合日本委員会  
Japan Committee for IUCN (IUCN-J)

VU THI HANG

生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム D1  
Doctoral Program in Geosciences, Degree Programs in Life and Earth Sciences D1

## ▶▶ 5<sup>th</sup> WCBR Hangzhou: Everyone contributes to Biosphere Reserves

The World Congress of Biosphere Reserves is held every 10 years, and in 2025, the 5th WCBR was convened in Hangzhou, China, from September 22nd to 26th. The World Network of more than 2,000 stakeholders, including scientists, policymakers, community leaders, entrepreneurs, and conservationists, came together to identify priorities, strengthen collaboration, and define a Global Action Plan for the future of Biosphere Reserves. Their discussions focused on the WCBR's contribution to the global biodiversity and SDGs.

This year, as an intern of IUCN-J, I had a chance to go with and learn from all stakeholders on how they are contributing to Biosphere Reserves practically. The scientists use their academic, technological knowledge to conduct scientific research (conducting interdisciplinary research), technical application (monitoring and evaluating the impact of natural disasters and human activities), capacity building (organizing training workshops), and international exchange. While the private company sectors are also joining through

material innovation research and producing eco-friendly products. In the field trip visit to Tianmushan-Qingliangfeng Biosphere Reserves, I could see young people can make money and sell products via e-commerce right in the Biosphere Reserves sites. Thus, this congress opened my mind to different aspects of how everyone can contribute to the Biosphere

Reserve, then protect nature.

Moreover, this internship with IUCN-J was providing me with many skills on how to promote a conference, nature conservation event on social media, and how to write a good international conference report. I would like to thank IUCN-J and CPNC for providing me with this opportunity.



Attending at side event of the University of Tsukuba at 5thWCBR with scientists and panelists  
(Second from the right in the front row)

Provided by Yoshihiko Iida

実施時期 ▶ 2025年8月21日～10月23日

国際自然保護連合日本委員会  
Japan Committee for IUCN (IUCN-J)

翁 杰瑞翌  
WENG JIERUIYI

生命地球科学研究群 生命農学学位プログラム D2  
Doctoral Program in Life and Agricultural Sciences, Degree Programs in Life and Earth Sciences D2

## ▶▶ 第5回生物圏保存地域世界大会: 国際交流とユース 5thWCBR: International communication and Youth

IUCN-Jでのインターンシップとして、中国・杭州で開催されたUNESCOのMAB (Man and the Biosphere: 人間と生物圏) プログラムに基づく国際会議である第5回WCBR (5th World Congress of Biosphere Reserves: 生物圏保存地域世界大会)に参加しました。国際的な交流会議には初めて参加しました。

会議では、生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)に携わる多くの専門家や関係者から、その活躍と推進活動についての発言があり、提案が議論されました。また、世界中から集ったユースによる発表と討論の場も設けられました。グループディスカッションに参加し、生物圏保存地域が直面する課題や現状の不足点について、意見交換を行いました。これを通じて、今後の連携につながる貴重なネットワークを築くことができました。専門家からユースまで、それぞれの所で活躍しており、国際的な対話を通じて、より多くの人々がMABに関わることができると

実感しました。

今回のインターンシップをきっかけに、世界と対話することができ、自分の視野を広げ

る楽しい体験となりました。今後の研究やキャリアに非常に貴重な経験とと思います。



中国・杭州での第5回生物圏保存地域世界大会

撮影 VU THI HANG

国際自然保護連合日本委員会  
Japan Committee for IUCN (IUCN-J)

セチェントウヤ  
SIQINGTUAYA

実施時期 ▶ 2025年10月8日～10月15日  
生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム M1  
Master's Program in Earth Sciences, Degree Programs in Life and Earth Sciences M1

## 世界最大の自然保護会議を支えて: アブダビでの学び Supporting the World's Largest Conservation Congress: Learning in Abu Dhabi

I was privileged to attend the IUCN World Conservation Congress (WCC) 2025 in Abu Dhabi with IUCN-J. I sincerely thank the University of Tsukuba's CPNC and IUCN-J for this invaluable, eye-opening opportunity. Experiencing the immense scale and operational depth of this major international conservation conference was an unforgettable highlight.

The WCC was an impressive event encompassing summits, forums, exhibitions, and the Members' Assembly, in which I actively participated. As a young scholar, I attended the Youth Summit to hear the global conservation ambitions of my peers. Leveraging my expertise in meteorology, I focused on sessions concerning Climate Change and Nature Conservation, gaining significant insight. As part of the Japanese delegation, I actively supported sessions hosted by the Ministry of Foreign Affairs and the Ministry of the Environment on OECM and the Red List. I also contributed to promoting the upcoming Global Nature Positive Summit in Kumamoto. Given my background, I also learned from discussions on biodiversity

conservation in arid regions and grasslands. Furthermore, I helped present Japan's conservation achievements at the exhibition booth and witnessed key governance processes like motion adoption at the Members' Assembly.

This experience expanded my knowledge base and provided a platform for deep

exchange with global experts and young professionals. Contributing to the presentation of Japan's conservation efforts was a tremendous step in my professional growth. I am committed to continued participation in international forums to bring back valuable insights and experience to both IUCN-J and CPNC.



IUCN-WCC2025国際会議会場 Abu Dhabi National Exhibition Centre (ADNEC) にて

撮影 嶋田 恭子 (IUCN-J インターン生)

国際自然保護連合日本委員会  
Japan Committee for IUCN (IUCN-J)

作森 元司郎  
Motojiro SAKUMORI

実施時期 ▶ 2025年8月26日～11月28日  
人間総合科学研究群 世界遺産学学位プログラム M1  
Master's Program in Heritage Studies, Degree Program in Comprehensive Human Sciences M1

## アブダビで開催された IUCN 世界自然保護会議 (WCC) に参加 Report on Participation in the IUCN World Conservation Congress in Abu Dhabi

世界自然保護会議 (2025年10月9日～15日) への参加は、自然保護の最前線を直接学ぶ機会となりました。各国政府や国際機関、企業、NGO、若者などが真剣に議論を交わす様子を目にし、自然保護が世界規模の協働によって進められていることを強く実感しました。特に印象深かったこととして、第一に、気候変動や生物多様性の危機に対し、「保全」と「経済」を対立ではなく統合すべきテーマとして扱う議論が主流となっていた点です。自然を守りながら経済を動かす仕組みづくりが、世代を超えて持続可能な未来の鍵となると理解しました。第二に、若者の参画が非常に盛んであり、気候変動等の影響を最も受ける若い世代での声が政策議論に反映されている場をみると、日本との意識の差を強く感じました。インターンシップでは、IUCN-Jの国内向け報告書の作成、各会合の内容を記録し自分の意見をまとめる業務を担当し、国際会議の情報発信に携わったことは大きな学びとなりま

した。また、ブース対応等を通じ、海外の若者が自らの地域課題を力強く発信する姿に触れ、私自身も日本の自然保護の現状等を積極的に外へ伝えていく必要性を認識しま

した。人生の大きな転機となる機会を提供いただいた IUCN 日本委員会ならびに自然保護寄附講座に感謝いたします。



WCC初日のExcursionにはカンドウラを着用して参加。この後モスクを訪れました。

撮影 多計 和真 (Change Our Next Decade)

実施時期 ▶ 2025年9月29日～10月31日

国際自然保護連合日本委員会  
Japan Committee for IUCN (IUCN-J)福井 涼士  
Ryoji FUKUI生命地球科学研究群 生物学学位プログラム M1  
Master's Programs in Biology, Degree Program in Life and Earth Sciences M1

## SBSTTA27 参加報告:現場で知った条文の重み SBSTTA27 Participation Report: Realizing the weight of provisions

2025年10月20日～24日に、パナマで開催された生物多様性条約第27回科学技術助言補助機関会合(CBD-SBSTTA 27)にインターンとして参加しました。国際会議について考えることすらも少なかった私ですが、現場に身を置いてみることで多くの気づきを得ました。私は渡航前、当会議を「参加国が具体的なアイデアを出し合う場」と想像していましたが、実態は「準備された文書に対して各国が意見を表明する場」でした。議論の焦点は、文書の内容以上に単語や言葉のニュアンスにおかれ、たった一つの表現をめくり1時間以上議論が続いたこともありました。また、本会合は科学技術助言が目的であるにもかかわらず、政治的な立場を元とした交渉が目立ちました。先進国と新興国及び途上国、あるいは国家とNGOの意見の相違は大きく、議論は最終日の23時まで続けられました。これまでなんとなく字面だけを追っていた条約が、多様なステークホルダーによる厳密かつ徹底的な

議論に基づき完成するものだと知り、その一文一文の重みや価値を実感する体験でした。国際条約の実現を現実に落とし込む現場に飛び込み、その実態を肌で体感できた今回

のインターンシップは、私にかけがえのない学びを与えてくれました。このような貴重な機会を頂けたことに深く感謝いたします。



会議が終了予定時刻を大幅にオーバーし、頭を抱える私

撮影 道家 哲平 (IUCN-J)

実施時期 ▶ 2025年9月1日～9月5日

環境省 (本省)  
Ministry of the Environment野本 実奈  
Mina NOMOTO生命地球科学研究群 地球科学学位プログラム M1  
Master's Program in Geosciences, Degree Programs in Life and Earth Sciences M1

## 多様な専門性が交わる、環境政策の最前線 The forefront of environmental policy: Where diverse expertise intersects

環境省環境保健部・熱中症対策室にて5日間のインターンシップに参加しました。自身が都市の暑さ緩和策に関する研究を行っており、熱中症対策を担う同省に興味を持ち、参加を決めました。職員の方々と共に、毎朝の熱中症特別警戒アラートの確認、データ分析、週報資料の点検など、多岐にわたる業務を体験しました。国の機関として指針を打ち出すだけでなく、それが国民に届き、社会に浸透していく過程まで支え、管理するという業務の幅広さに驚きました。短期間ながら、得た学びは非常に大きいものでした。特に印象的なことは、多様な専門性を持った職員の方々に加え、他省庁、医療、民間、独立行政法人などの出向者によってさらに知見の幅が広がっていた点です。環境政策は社会のあらゆる側面と密接に結びついているため、一つの課題解決には、多様な知見を持つ人々がチームとなって広い視野で取り組む必要があることを肌で感じま

した。今回の経験を通じて、視野が広がっただけでなく、自分自身の経験や知見を将来社会で活かしていくために、現在取り組んでいる学業に対して自信を持って最後まで向

き合っていきたいと強く思えるようになりました。貴重な機会と多大なるご支援をくださった環境省の皆様へ、心より感謝いたします。



合同庁舎5号館26階からの景色

撮影 野本 実奈

## モンゴルの自然・文化・歴史から自然保護の重要性を発見する

2025年7月28日～8月4日 モンゴル  
July 28 – August 4 2025 at Mongolia自然保護特別実習1  
Field Practice in Nature Conservation 1

## Discover the importance of nature conservation through Mongolia's nature, culture, and history

担当教員 川田 清和・上條 隆志  
Lecturers K. Kawada, T. Kamijo

自然保護特別実習1は7泊8日の日程でモンゴルにおいて実施されました。2025年は4名の大学院生が実習に参加しました。ウランバートルにある国立チンギス・ハーン博物館では、モンゴル人の自然観の基礎となる文化的・歴史的背景を学習しました。ホスタイ国立公園では、実際に教員が研究しているモンゴルの草原で環境保護の必要性を学び、植生調査や刈り取り調査を通じて自然環境の保全に必要なデータを集める方法を体験しました。ホスタイ国立公園の協力によって特別保護区に立ち入り、野生絶滅後に再導入したモウコノウマを観察しました。また、モンゴル特有の山地地形に広がる森林と草原の境界部を歩きながら、アカシカによる食害や、斜面の向きによって大きく変化する植生の様子を観察しました。さらに、過放牧が進んでいる草原と、まだ健全な状態を保っている草原を比較し、草原の修復に取り組む研究について知ることができました。そしてホスタイ国立公園にある石像群を見学し、人間による草原の持続的利用の在り方について考える

ことができました。本実習は学生たちにモンゴルの草原を通じて自然と人間との関係について考え、自然保護の重要性を認識す

る貴重な機会になりました。

(文・写真 川田 清和)



モンゴル草原における刈り取り調査の様子

## 登山道整備を通して体感する保護地域管理の現場

2025年9月28日～9月30日 富士北麓地域  
September 28 -30 2025 at northern foot of Mt. Fuji保護地域管理実習  
Field Practice of Protected Area Management

## Experiencing Protected Area Management Through Trail Maintenance

担当教員 三ツ井 聡美  
Lecturer S. Mitsui

本実習を実施した富士山とその周辺地域は、富士箱根伊豆国立公園に指定されており、世界文化遺産の構成資産も複数点在しています。この地域の文化的な背景への理解を深めるため、浅間神社や船津胎内などを訪問し、現存する御師の家にて富士講の歴史や現状の課題を伺いました。さらに、富士山レンジャーの皆様と共に歩いた富士山五合目の御中道では、登山利用の現状を知り、登頂だけではない富士山の楽しみ方や価値を体感しました。自然環境に関しては、火入れをして維持されてきた草原や、シカによる食害とジビエ利用などについて現場の様子を目の当たりにしつつお話を伺いました。そして、NPO 法人富士トレイ

ルランナーズ倶楽部と環境省の方々のご協力のもと、石割山（国立公園普通地域）にて近自然工法を取り入れた登山道整備を行いました。丸太や土のうを運び、木葉を集め、雨が降った時の水の流れや植生などを考慮して、荒廃している登山道を整備して

いく工程を体験しました。作業後は温泉で汗を流し、地元の方々との交流会を開きました。地域の文化と自然を大切にしている地元の方々の思いに触れ、地域の価値をどう守り継承していくかを考える貴重な機会となりました。(文 三ツ井 聡美)



(左)みんなでつくった登山道(右) 天気にも恵まれた御中道にて

撮影 (左)富士トレイルランナーズ倶楽部提供(右)三ツ井 聡美

## 森・里・海が織りなす佐渡島の豊かな自然

### The Bountiful Nature of Sado Island, Woven from Forests, Satoyama, and the Sea

2025年8月25日～29日 佐渡島  
August 25-29 2025 at Sado Island

野生生物管理実習  
Field Practice of Wildlife Management

担当教員 澤田 聖人  
Lecturer K. Sawada

2025年8月25日～29日にかけて、新潟県の佐渡島で野生生物管理実習を行いました。実習には、事前学習で学生各々が自身の興味に沿って調べ、作成した佐渡島の自然等に関する計26ページの電子資料を持っていきました。新潟大学佐渡演習林やジオサイトであるドンデン高原やニツ亀では、佐渡島に特徴的な植生や地形地質について学びました。トキの森公園やトキ保護センターでは、一度野生絶滅したトキの再導入過程について学んだ後、実際の現場であるトキのモニタリンググループや順化訓練ケージを見学させていただきました。また、世界農業遺産である佐渡島の里山を実際に訪れ、その維持管理方法について学んだほか、固有種サドガエルをはじめとする水田棲生物を観察しました。尖閣湾揚島遊園では、グラスボートに乗り海洋生物を観察したほか海食崖を見学しました。最終日には2024年7月に世界文化遺産に登録

された“佐渡島の金山”にも訪れました。本実習により、森・里・海が織りなす佐渡島の豊かな自然について学ぶことができました。実習にご協力いただいた新潟大学の

阿部晴恵先生や蕪木史弦先生、豊田光世先生、そしてトキ保護センター職員の方々には、この場を借りて心より感謝申し上げます。  
(文 澤田 聖人)



野生生物管理実習の様子

撮影 澤田 聖人 右下の集合写真はドンデン山荘の職員さんが撮影

## 陸域フィールド実習 1 in ハケ岳

### Field Practice of Terrestrial Ecosystem 1 in Yatsugatake

2025年7月22日～7月25日 ハケ岳山麓  
(筑波大学ハケ岳演習林ほか)、長野県・山梨県  
July 22 to 25 at Foot of the Yatsugatake mountains  
(Tsukuba Yatsugatake University Forests and so on),  
Nagano and Yamanashi prefectures

陸域フィールド実習 1  
Field Practice of Terrestrial Ecosystem 1

担当教員 上條 隆志・飯島 大智  
Lecturers T. Kamijo, D. Iijima

陸域フィールド実習1では、ハケ岳の植生と希少野生生物観察、樹木識別実習、自然保護活動に関するディスカッションを行っています。今年は、許可の関係で中断していたヤマネ調査実習が再開しました！実習は、長年、ヤマネの調査研究、普及活動、調査技術開発をしている筑波大学技術職員の杉山昌典さんが指導してくれました。調査は、杉山さんが開発したヤマネ調査用巣箱（名称：ヤマネのお宿）を一個づつ開けて確認する形で行われました。当然、すぐには確認できませんでしたが、学生の「あっ!？」というような声上がり、ヤマネを確認できました（写真）。普段、絶対に（強調します!!）見れない生き物を、創意工夫することで調査できるようにした杉山さんの努力の賜物です。実習では、じっくりと杉山さんのお話を伺いました。参加者たちからも多くの質問が出ました。本講座は、ただ自然を楽しむことが目的ではありません。保全の在り方、許可などを含めた調査方法の在り方、普及啓発の在り方など、最前線の調査者と話せたことが最も実りある点だったと思います。

(文・写真 上條 隆志)



ヤマネ発見!!

## 白山奥山人から自然を生かした地域づくりを学ぶ

2025年8月 石川県白山市  
August 2025 at Hakusan city, Ishikawa prefecture

ユネスコ地域演習  
Project Practice in UNESCO-designated Area

担当教員 飯田 義彦  
Lecturer Y. Iida

### Learning nature-based local development from Hakusan Okuyamabito people

ユネスコエコパーク (BR) と世界ジオパーク (GP) の実施状況を考える英語科目です。日本3名、ベトナム1名の参加がありました。8/1には白山BR協議会や白山手取川GP推進協議会を訪問、白山比咩神社に参拝しました。8/2は白峰地区やNPO白山しらみね自然学校の取組、BRやGPの学生発表、石川県立白山ろく民俗資料館でのオパール染、夕方に白山奥山人(焼畑継承者)の話を聴きました。8/3には焼畑の火入れとともに、太田の大トチノキの見学、8/4も火入れ後の耕起体験、白峰の林業事業者の講義と林業現場の視察から森林との関わりを学びました。8/5は白山砂防科学館や白山砂防施設の現地見学、杉田ワサビ園、NPO環白山保護利用管理協会による外来植物除去活動、環境省自然保護官から白山国立公園、シラミネ

大学村の活動を学び、8/6にNPO白峰まちづくり協議会の取組や白山高山植物園の見学、さらに白山の魅力を探る対話活動を学生や地域関係者とともに実施しました。8/7は加藤手織牛首つむぎで無形文化遺産の継承、山立会で野生動物管理をビジネス

から捉える活動、GPサイトの綿が滝や御仏供スギを訪問、最後に白山市観光連盟にてヒアリングを実施しました。自然を生かした地域づくりに関する多様な協働の仕方について対話を通じて理解しました。  
(文・作図 飯田 義彦)



2025年8月1日(金)  
白山ユネスコエコパーク協議会・  
白山手取川世界ジオパーク協議会

2025年8月4日(月)  
焼畑(耕起)体験 焼畑伝承者たちと共

2025年8月3日(日)  
焼畑(火入れ)体験

2025年8月5日(火)  
白山砂防施設

ユネスコ地域演習2025のようす

## 野生生物管理の国際的視点と発信

2025年11月12日～2026年1月28日  
November 12 2025 - January 28 2026

Wildlife Management

担当教員 澤田 聖人  
Lecturer K. Sawada

### International Perspectives and Communication on Wildlife Management

Wildlife Managementでは、野生生物管理に関する国際基準やその管理の背景にある生物多様性問題について学術論文を含む実例を交えて学びました。具体的には、Wildlife Managementの定義、多種共存機構、グローバルレベルでの生物多様性の損失機構および回復活動、絶滅危惧種保全、害虫害獣対策、外来種問題について学びました。加えて、国際舞台での発信力を培うために授業は全て英語で実施され、プレゼンテーションやディスカッションの時間が毎回設けられました。具体的には、身近な野生生物問題に関する英語記事の紹介(Newspaper Clipping)、特定の野生生物問題に対する科学的根拠に基づく自身/グループの意見発表とその意見に対する討論(Solo Presentation/Group Presentation)を行いました。多くの学生にとって英語でのコミュニケーションは馴染みのないものですが、帰

国子女や留学生の履修により、実践的な対話が実現しました。本授業を通して学生たちは野生生物管理に関するグローバルスタ

ンダードな知識と英語での対話力を育むことができました。

(文・写真 澤田 聖人)



学生によるプレゼンテーションの様子

生態系の保全と復元を考える

2025年2月10日・12日 (2024年度実施)  
February 10 and 12 2025

生態系の保全と復元  
Ecosystem Conservation and Restoration

担当教員 飯島 大智  
Lecturer D. Iijima

Considering Ecosystem Conservation and Restoration

2025年2月10日と12日に開講された生態系の保全と復元では、森林、湿地、里山など様々な生態系について、自然を守りながら持続的に利用し、さらに劣化した生態系を復元していくための理念と実践例を学びました。1日目には、自然界が直面する諸問題の実態を最新の研究成果を含む実例とともに学び、生態系保全に関する環境倫理的な考え方や、生態系サービスの評価方法についても学びました。2日目には、生態系の復元や保全に関わる地域計画や、Eco-DRRとしての機能を含むグリーンインフラとしての生態系の活用方法、生態系に根ざした問題解決方法についての理念や実例を紹介し、実際に回遊魚の保全方法に関するグループディス

カッションを通して考えてもらいました。複数のグループに分かれ、回遊魚の保全で優先すべきことや、必要だが実現不可能なもの、優先度が低いことを整理し、グループ間で意見交換を行いました。グループに

よって優先すべきだと考えることが大きく異なったことは印象的で、保全における対話の重要性を実感する機会になったと思います。(文・写真 飯島 大智)



海と川を行き来する魚類は、複数の生態系をつないでいる。そのような生態をもつ回遊魚の保全をつば市を舞台として考えるグループディスカッションでは、さまざまな意見が出た。

自然保護学の対話能力を通年で積み上げる

2025年6月～2026年1月  
May 2025-January 2026

自然保護セミナー  
Nature Conservation Seminar

Building dialogue skills on nature conservation studies throughout the academic year

担当教員 飯田 義彦・三ツ井 聡美・飯島 大智・澤田 聖人・上條 隆志・吉田 正人  
Lecturers Y. Iida, S. Mitsui, D. Iijima, K. Sawada, T. Kamijo, M. Yoshida

2025年度はM1が22名(生物3、生物資源4、地球4、環境3、山岳4、世界遺産3)、M2が1名(世界遺産)、D1が1名(環境)で23名が履修しました。春学期には、6/5に学生の自己紹介プレゼンテーション(飯田)で始まり、6/20「自然保護の歴史と概念」(吉田)、6/26「島の自然保護」(上條)、7/10「自然保護とグローバル対話」(飯田)を実施し、秋学期には10/9「里山生態系の現状と課題」(澤田)として宝篋山麓の里山の生物相や課題を野外で学び、10/23「自然資源の利用と保全」(三ツ井)では神宮翔真博士(森林総合研究所)から話題が提供されました。さらに、11/6につば市の生物多様性地域戦略(上條)、11/20筑波大学を自然共生サイトと想定した場合の可能性(三ツ井・澤田)、12/18「山岳の生物多様性保全」(飯島)では質問づくりの対話活動が行われました。1/22には受講生全員が自然保護について自ら考えを深めた視点を共有しました。通年の講義や受講生同士のグループ討議を通じて、分野を超えて履修生同士の繋がりが強

化が図られました。また、インターンシップ報告会をセミナー後に計4回開催し、国

際会議や学外での実践経験も学年を超えて共有されました。(文・作図 飯田 義彦)



自然保護セミナー 2025のようす

世界と歩む自然に根ざした地域づくりを学ぶ

2025年6月 筑波大学、筑波山地域ジオパーク  
June 2025 at Univ. of Tsukuba, Mt. Tsukuba Area Geopark

ユネスコエコパークとジオパーク  
UNESCO Biosphere Reserves and Geoparks

Learning nature-based local development with global interaction

担当教員 飯田 義彦  
Lecturer Y. lida

「ユネスコエコパークとジオパーク」は2024年度から自然保護寄附講座科目として開講しました。2025年は6月28日-29日に実施し、8名（世界遺産3、山岳2、地球1、環境1、生物1）が履修しました。ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）とユネスコ世界ジオパークは科学的な知見に基づいた保全と地域振興の両立を図るユネスコ科学プログラムの地域認証制度として世界にネットワークが広がっています。この講義では、生態系や地形地質の保全、観光や教育への活用、持続的な地域振興といったさまざまな活動事例を通じて、その理念や仕組み、効果的な運営について学ぶことを目的としています。講義だけでなく、ジオパーク活動を進める意義と課題、今後の可能性についての事前レポートの作成をふまえて、自身の考えを発表することに加えて、現地での視察も重視しています。2日目午後には、筑波山地域ジオパーク内の「雪入ふれあいの里公園」（かすみがうら市）を訪問し、採石場跡や自然再生の様子、ネイチャーセンターの展示解説の実態を学

びました。その後、「つくばジオミュージアム」（つくば市）での展示解説の体系、施設整備とまちづくり計画の関係、国内ジオパークネットワークの情報展開の様子を

見学し、ジオパークにおける価値の伝達の重要性について学びました。  
(文・写真 飯田 義彦)



雪入ネイチャーセンターでジオパークの価値に関わる展示解説の手法を学ぶ(筑波山地域ジオパーク)

Pick Up!

人と自然の共存をめざす河川改修の現場

2025年9月10日～12日 北海道・知床  
September 10 - 12 2025 at Shiretoko, Hokkaido

Learning About Coexistence Through River Improvement in Shiretoko

人間総合科学研究群 世界遺産学学位プログラム M2  
Master's Program in Heritage Studies, Degree Programs in Comprehensive Human Sciences M2

向笠 陽介  
Yosuke MUKASA

自然保護公開フィールド実習  
Extension Course for Field Practices in Nature Conservation

自然保護寄附講座では、自然保護学を実践的に修得することを目的に2024年度から学外で提供される公開実習等を対象に「自然保護公開フィールド実習」として単位認定を行っています。以下に2025年度の履修学生からのレポートを紹介します。(飯田 義彦)

私は、2025年9月10日から12日にかけて、公益財団法人知床自然アカデミーが主催する「知床ネイチャーキャンパス2025」に参加しました。この実習では、世界自然遺産である知床で、生態系の復元をテーマに、海と陸をつなぐ河川の現地視察を行いました。ペレケ川やイワウベツ川など複数の河川を訪問し、サケ・マス類が遡上できるよう整備された魚道や、希少種であるシマフクロウが暮らしやすい環境をつくる工夫など、自然に寄り添った河川づくりの現場を視察しました。また、ウトロ地区では、ヒグマが市街地に近づかないように設置された電気柵など、人と野生動物がほどよい距離を保ちながら共存するための取り組みについても学びました。これらの施設は、ただ整備するだけでなく、その後の維持や地域の理解を得ることが重要であり、その難しさを実感しました。実習の最後には、河川生態系に関する課題について、グループごとに解決策をプレゼンし、講師や参

加者の方々と意見を共有しました。

今回の実習を通じて、知床で行われている環境保全や生態系復元の取り組みを実際の現場から学ぶことができ、人と自然とが共存していくために何ができるのか、自身の考えを深めるとも良い機会となりました。



発表に向けたグループ討議

来運川の視察

斜里川の視察

実習中のようす

公益財団法人知床自然アカデミー提供

Pick Up!

## 自然保護寄附講座第2回同窓会企画「履修生・修了生交流会」開催報告

第1回同窓会企画(2024年)の好評を受け、今年もOB・OGと現役生の交流の場として第2回同窓会企画を2025年8月23日(土)に開催しました。当日は33名が参加しました。今年のテーマは「仕事とキャリア形成」とし、第1部の講演会では、自然保護寄附講座の修了生である佐々木翼氏(9期生・株式会社オリエンタルコンサルタンツ)、中城美優氏(9期生・東京都水道局)、福井俊介氏(3期生・環境省自然環境計画課)の3名をお招きし、現在の仕事内容や今後のキャリア形成に対する考え、大学院生のときに役に立ったことや現役生へのメッセージなどについてご講演いただきました。参加者からは、「就活中であったため現場で働くOB・OGの話が聞けてとても参考になりました」「自然環境や生物多様性に関わる人の生の話を聞くことができてよかった」「自然保護寄附講座で得たものは割とそのまま活きるのだなと感じました」といった声が寄せられました。第2部の懇親会でも活発な意見交換が行われ、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めました。同窓会企画は今後も実施したく、皆さまの参加をお待ちするとともに、企画の持ち込みや運営へのご協力も大歓迎です。ご関心のある方は三ツ井までご連絡ください。

(文・写真 三ツ井 聡美)



1. 佐々木氏、2. 中城氏、3. 福井氏、4. 講演会参加者の様子、5. 交流会の様子

Pick Up!

## 第2回つくば生き物多様性フェスタへの参加レポート

2025年11月30日(日)に「第2回つくば生き物多様性フェスタ」が筑波大学で開催されました。本イベントは、上條隆志教授を代表とする筑波大学の社会貢献プロジェクトとして実施され、自然保護寄附講座の教員や学生も多数参画しました。当日は、近隣の8つの自然共生サイトの関係者が一堂に会したほか、学生や地域の方々など150名以上の参加がありました。会場では、つくば市の生物多様性とその保全活動について市民の理解を深めることを目的に、参加団体による日頃の活動を紹介するポスター発表やシンポジウムが開催されました。また、上條教授と横井横井智之助教による大学構内での自然観察会も実施され、大盛況でした。自然保護寄附講座履修生も「インタープリテーション概論」(三ツ井担当)の一環で4つのブース展示を行いました。伝えたいテーマや構成を練って工夫を凝らした展示は、来場者から好評を博し、多くの方々楽しんでいただけたようです。その様子は世界遺産学学位プログラムのHPでも学生からの報告記事として掲載されています。つくば市では生物多様性戦略が策定され、今後、関連する取り組みが一層活発化することが期待されます。次年度のつくば生き物多様性フェスタも今から楽しみです。

(文・写真 三ツ井 聡美)



関係者が集まった開会式の様子

自然保護寄附講座 Newsletter No.12  
2026年3月23日発行  
発行 筑波大学大学院 自然保護寄附講座  
編集 飯田 義彦 / 田口 由香里 (自然保護寄附講座事務局)  
印刷 株式会社アイネクスト

筑波大学大学院 自然保護寄附講座  
Certificate Programme on Nature Conservation, University of Tsukuba  
HP: <https://www.conservation.tsukuba.ac.jp/>  
Email: [nature-cpnc@un.tsukuba.ac.jp](mailto:nature-cpnc@un.tsukuba.ac.jp)

〈事務局〉 Secretariat Office  
〒305-0006  
茨城県つくば市天王台1丁目 筑波大学環境防災研究棟103  
Laboratory for Environmental Disaster Prevention  
Research 103, 1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-0006  
JAPAN  
TEL: +81-(0)29-853-8063

〈プロジェクト室・図書室〉 Project Office / Library Room  
〒305-8571  
茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学共同研究棟A206  
Cooperative Research Building A206, 1-1-1 Tennodai,  
Tsukuba, Ibaraki 305-8571 JAPAN  
TEL: +81-(0)29-853-6344

 @ 自然保護寄附講座

 @ natureconserva1  
(IFTwitter)

